

# 浄泉寺報

第40号  
2025年  
春彼岸



## 彼岸会について

浄泉寺住職 望月廣三

彼岸(悟りの世界)と此岸しがん(迷いの世界)は紙一重というよりコインの裏表の関係です。こう言えば大概の人はそんなはずがない、と思われるでしょう。悟りと迷いがどうして表裏一体なのか。プラスとマイナス。真反対。そう考えられている人が大多数でしょう。ところがそうではないのです。

何故か。理由は簡単です。表が

なければ、裏もない。裏がなければ表もない、からです。仮に裏を迷いとすれば、迷いがあるから悟れるのです。悟りはつねに迷いに裏打ちされているという事実です。

私たちは死を怖れ、不安に脅えています。そして、どうしたらこれらの苦悩から免れるか、心をくだいています。そうではなく、つまりどう免れるか、でなく、「コインの表と裏の関係のように、表には裏が必要なのです。裏を大切に

## 浄泉寺からのお知らせ

### ● 同朋会 (月例法座) ●

浄泉寺では、毎月お勤めと住職の法話を中心にした同朋会を開催しています。どなたでもお気軽にご参加いただけますので、ぜひお越しください。日程等の問合せは浄泉寺まで。

### ・ 若坊守のひとりごと ・

「なあなあ、本読んで」

寝支度を終えた5歳の息子が必ず言う言葉です。好きな絵本を持ってきたり、テーマパークの雑誌を持ってきたりすることもありません。「読み聞かせの時間」は

「語りかけの時間」。絵本でも雑誌でもスーパーパーのチラシでもよくて、息子は私と同じものを見て時間を共有し、つながる一体感を求めているでしょう。親が自分

にだけ語りかけてくれる体験が、子どもにとって何よりの喜びなのだと思います。

そうはいつても、私も快く「いよいよ」と言える日と、「さっさと寝てくれないかな」なんて思ってしまう日があります。早く明日の段取りがしたい、早く寝かせないと子どもの朝の機嫌が悪くて大変…などなど、「今」のことより「明日」のことが頭をよぎります。しかし、子どもにとって大切なのは「今」です。それに比べて私はいつも先の事ばかり考えていることに気づかされるのです。

子どもを通して見えてくる自分は自己中心的で、時々ドキッとします。100%の「今」に立っていない私を言い当ててくれる、子どもは私にとっての仏さんなのかもしれません。

(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

お内仏(仏壇)に座る ③⑧ ~ 蓮如上人御影道中 御上洛記 ~

「蓮如上人御影道中」は、本願寺8世・蓮如上人による北陸教化のご苦勞とその徳を偲び、吉崎御坊(吉崎別院)で厳修される「蓮如上人御忌法要」[毎年4月23日~5月2日]にあわせて、京都・真宗本廟(東本願寺)と吉崎別院(福井県あわら市)の間を蓮如上人の御影を御輿に乗せ、上人のお供として歩く仏事です。江戸時代から毎年行われ、今年で352回を数えます。



「蓮如上人さまのお通り～」の触れ声に先導され、京都・東本願寺から石川県と福井県の県境・吉崎別院の間の往復約420kmを蓮如上人の御影のお供として歩く仏事・蓮如上人御影道中。本山の吉崎別院(御影道中)活性化プロジェクトに携わらせていただく中で、昨年の復路(「御上洛」と呼ばれます)8日間約220kmを完歩させていただきました。足は水膨れだらけ、膝にも水がたまり、ボロボロになりながら京都に戻ってきました。

途中、北陸新幹線と北陸自動車道の間を時速5kmで歩む御輿車と呼ばれる蓮如上人をお乗せしたりヤカーを曳きながら「何でこんな辛いことを」と、何度かくじけそうにもなりました。しかし、それでも何かに運ばれていく道中なのです。我が身の限界を知らされながら、風を受け、太陽に照らされ、時に雨に打たれながら…。「そうになっている」世界に気づかされるには、痛みを伴って、自分の力の間に合わなさ(=自力無功)を知らされることが必要なのです。

しかし、人間はすぐに忘れる存在で、あれほど痛かった痛みも忘れ、今年(今年)は往路(「御下向」と呼ばれます)7日間約200kmをお供する予定です。

ご参加希望の方がおられましたら、来年はぜひ一緒にしましょう!! (浄泉寺若院・釋亜世)



御影道中は、旧街道を通って進みます。木ノ芽峠や湯尾峠といった峠越えもあります。御影道中について詳しくは、下記QRコードからご覧ください。



令和7年(2025年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に仏さまの教えを今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和6年(2024年)亡
三回忌	令和5年(2023年)亡
七回忌	平成31/令和元年(2019年)亡
十三回忌	平成25年(2013年)亡
十七回忌	平成21年(2009年)亡
二十五回忌	平成13年(2001年)亡
三十三回忌	平成5年(1993年)亡
五十回忌	昭和51年(1976年)亡

<発行元・問い合わせ>



真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

電話 0799-22-4798

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43

ホームページ <http://jyosenji.asei.info>